

## 障害者スポーツを通しての地域振興

～障害のある人もない人も参加できる

スポーツの場を目指して～

千葉県立栄特別支援学校

電話 0476-80-2500

FAX 0476-80-2502



### 研究のポイント

特別支援学校が地域における障害者スポーツの振興拠点となり、障害者の社会参加の推進や障害に対する理解を深めるとともに、特別支援学校の児童生徒にとって障害者スポーツを身近なものにすることを目的とする。

#### ■学校の概要 <https://cms2.chiba-c.ed.jp/sakae-sh/>

平成29年4月に開校し、全校児童生徒数104名でスタートした学校である。5年目の本年度は、全校児童生徒数147名であり、知的障害及び肢体不自由や視覚障害、聴覚障害等の障害を併せ有する児童生徒が在籍している。開校当初より、地域に根付いた学校を目指し、「『生きる力を育てる』地域力を活かして」という学校目標のもと、児童生徒一人一人が自分の良さを知ることによって自信をもち、目の前の困難に負けずに、地域社会の一員として自立し社会参加していくための基盤となる「生きる力」の育成を図っている。

#### ■研究課題

特別支援学校の児童生徒に障害者スポーツを身近なものにすることとスポーツを通じた交流により、社会参加の推進と障害に対する理解を深めることを課題と捉え実践研究を行う。

#### ■研究の目的と方法

##### 【目的】

- (1) 地域との障害者スポーツによる交流により、児童生徒の自立と社会参加の推進及び地域の人々の障害に対する理解を深める。
- (2) 児童生徒にとって障害者スポーツを身近なものにする。

##### 【方法】

- (1) 大会の開催
- (2) 地域交流
- (3) 児童生徒の障害者スポーツ体験
- (4) 職員研修の実施

「障害者スポーツ振興事業委員会」を分掌内に位置付け、分掌内で準備等を行った。活動後にはアンケートを実施し、参加者の意識の変化等を考察した。

## ■研究概要

### 【実践と成果】

#### （１－１）ボッチャ大会の開催

7歳から90歳代まで、障害の有無にかかわらず老若男女80名の参加があった。アンケートの感想の中には「栄町にサークルをつくってほしい」「スポーツを通じて様々な人と交流できる機会がたくさんほしい」などと継続した取組を期待する声が多く聞かれた。次年度は栄町主催で実施を望んでいるが、予算、人的物的環境等が課題とされている。

#### （１－２）陸上大会の開催

協力校等に呼びかけを行ったが、年間計画に入っていない行事を年度途中に入れることが難しく2校のみの参加であった。大会開催にあたり、学校単位での参加を求める場合には前年度から要請するのを感じた。参加した職員からは時期等の課題がクリアされるなら次年度以降も継続したいという声が8割挙がっている。

#### （２）近隣小学校へのお出前授業、教育ミニ集会や軽スポーツ教室でのボッチャ体験

「普段おとなしい子が声を出して喜んだり悔しがったり、感情を表に出していることが新鮮だった」「最高に楽しかったと授業後に話す児童がいた」などという声もあり、今後は学年交流の機会や特別支援学級の生活単元学習で取り入れて行く計画を立てると伺っている。また、軽スポーツ教室での体験を機に栄町ではボッチャセットを購入し、交流の場を広げる計画に着手していることも伺っている。

#### （３－１）校内Ｔスロー大会の開催

本事業の目的である「児童生徒に障害者スポーツを身近なものにする」という目標に関しては、ほぼすべての職員が「達成できた」または「おおむね達成できた」と回答している。また、「学部を越えての交流がよかった」「児童が交流を楽しんでいた」「来年も継続してほしい」などの声が挙がっている。

#### （３－２）パラバドミントン体験会

全員が初めて乗る競技用車いすに興味津々であった。鬼ごっこやレースを取り入れ、自然と操作が身につくプログラムで「貴重な体験ができた」「車いす操作が楽しかった」と生徒が感想を述べた。

#### （４）職員研修の実施

職員でルールを共有したことで、「校内Ｔスロー大会へ向けてのクラス指導に活かした」「実際に体験することの重要性が分かった」などと意識改革につながった。また児童生徒にとって障害者スポーツを身近なものにするために必要な事柄について全職員で考える場になった。

### 【今後の方向性】

栄町ではボッチャというスポーツにとっても興味を示しており、軽スポーツ教室での実施等が決まっている。本校でもできる範囲で協力体制を築いていく。また、校内Ｔスロー大会の実施についても検討を重ねていく。

## 【講評】

### 県立栄特別支援学校の実践について

特別支援学校を拠点とした障害者スポーツ振興事業における拠点校として、特別支援学校の児童生徒が地域の方々と一緒に障害者スポーツを行う交流を通じて、社会参加や障害に対する理解を互いに深め、共生社会の発展に寄与する研究に取り組んでいただきました。

ボッチャ大会の開催においては、幅広い年齢層の参加があったこと、障害の有無に関わらず楽しむ経験を地域の人々と共有できたことは、大変有意義であったと思われれます。また、校内での児童生徒の興味関心を高めながら教職員一丸となって取り組んでいただいたことは、児童生徒の将来における健康の維持増進にもつながっていくものであり、先生方の児童生徒への温かい支援を感じます。

今後も、子どもたちが地域で生涯に渡って障害者スポーツを楽しむことができる環境を整え、地域への障害者理解を深める実践的な取組を継続していただきたいと思います。